

ハングル「四面石塔」400年記念 コンサート&シンポジウム 平和への祈り

2024
11/9
(土)

♪ステンドグラスの美しい本堂で
美しい朝鮮民謡を楽しみましょう♪

千葉県館山市の浄土宗大巖院にある「四面石塔」は1624年に建てられ、和風漢字・中国篆字・印度梵字・朝鮮の古いハングルで「南無阿弥陀仏」と彫られています。豊臣秀吉の朝鮮侵略にかかわり、平和祈願をこめた供養塔とされます。400年前の先人に思いを馳せ、東アジア世界の善隣友好と市民の誇りを育みましょう。



【第1部】 会場：大巖院
10:00 **見学会「四面石塔」**
参加費無料（千葉県指定文化財）
10:30 **奉納コンサート：李政美**（イ・チョンミ）
参加費 1,000円 <定員 60名・要予約>
<https://simensekito400.peatix.com>

▼チケット購入



<注意> 第1部の駐車場は「漁師料理 たてやま」信号寄りに停めて徒歩5分。なるべく昼食は当店をご利用ください。コンサートは本堂のため、靴下を着用し、裸足はご遠慮ください。

【第2部】 会場：南総文化ホール 小ホール
14:00~16:30 **歴史シンポジウム**
「四面石塔の謎をさぐる」
参加費無料・資料代 1,000円 <定員 300名・予約不要>

- ・早川正司（房総石造文化財研究会会長）
- ・石川達也（大巖院副住職）
- ・滝川恒昭（敬愛大学特任教授・里見氏研究会代表）
- ・永淵明子（韓国語講師・翻訳者）
- ・愛沢伸雄（安房文化遺産フォーラム代表）
- ・池田恵美子（安房文化遺産フォーラム共同代表）



・大巖院（館山市大綱 398）
・南総文化ホール（館山市北条 740-1）

主催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム 共催：大巖院
後援：千葉県教育委員会、館山市、館山市教育委員会、館山市観光協会、房日新聞社
大巖寺、浄土宗千葉教区、文化財保存全国協議会、千葉県文化財保護協会
館山市文化財保護協会、房総石造文化財研究会、日本年金者組合安房支部
千葉県歴史教育者協議会、日韓教育実践研究会、千葉県日本韓国・朝鮮関係史研究会
千葉県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、国連 NGO 新日本婦人の会館山支部
駐日韓国大使館韓国文化院、国外所在文化遺産財団
問合：awabunka@awa.or.jp FAX:0470-22-8271 TEL:090-6479-3498

▼四面石塔の紹介



ハングル「四面石塔」400年記念 コンサート&シンポジウム 平和への祈り

2024.11.9 (土) in 館山

大巖院／南総文化ホール



イ チョンミ

李 政美 東京葛飾生まれの在日コリアン二世、国立音楽大学卒業の歌手。朝鮮民謡、フォークソング、フォルクローレなどを幅広く歌う。両親は済州道出身。NPO フォーラム会員であった長兄の故国本徳雄（在日済州道民会元会長）は生前安房郡鋸南町に住み、日韓交流の架け橋として活躍した。★コンサート予約 ⇒ <https://simensekito400.peatix.com>



大巖院のハングル「四面石塔」

館山市の大巖院は、1603年に安房国主・里見義康の帰依を受け、雄誉霊巖上人によって開かれた。境内にある「四面石塔」（千葉県指定有形文化財）は、各面に和風漢字・中国篆字・インド梵字・朝鮮ハングルで、「南無阿弥陀仏」と彫られている。

とくにハングルは、15世紀に創生された「東国正韻式」であり、100年ほどの短期間で消滅した字体だという。なぜ17世紀の館山に初期のハングルを刻字した石塔があるのか謎であるが、韓国本土でもきわめて珍しいといわれる。



「四面石塔附石製水向」
（千葉県有形指定文化財）



建立された1624年は、豊臣秀吉の朝鮮侵略から33回忌にあたり、江戸幕府によって被虜人送還（第3回朝鮮通信使・回答使兼刷還）がおこなわれた年であるため、平和祈願をこめた供養塔ではないかと推察される。解明されていない謎が多いが、貴重な国際的文化遺産といえよう。

当NPOの愛沢伸雄代表は1992年より「四面石塔」の調査研究に取り組み、県立高校の世界史や平和学習の教材として授業をおこなった。その教育実践は「日韓歴史教育交流会」において、2001年に韓国で、翌2002年（日韓国民交流年）には館山で報告され、高い評価を得た。また同年には、「日韓歴史交流シンポジウム」も開催され、「四面石塔」は日韓両国で注目されることとなった。

おうよ れいがん

▷ 雄誉霊巖 (1554-1641) = 浄土宗の高僧 =

駿河国出身とされる。千葉市の大巖寺3世、館山大綱の大巖院開祖。幕府の信任が厚く、江戸の湿地帯を埋め立てて1624年に霊巖寺を開いた。その地（現在の東京都中央区新川）は「霊巖島」と呼ばれ、房州航路の湊となった。霊巖寺は明暦の大火で焼失し、深川の現在地（東京都江東区）に移転した。

浄土宗総本山・知恩院（京都市）の第32世となり、3代将軍徳川家光の庇護のもと大火後の再興を果たし、日本一の大鐘を铸造した。全国に3,000人を超す弟子をもち、熱心な信者に支えられ、各地に多くの寺院を建てた。安房国から伯耆国（鳥取県倉吉）へ改易された里見忠義を訪ねたといわれる。



雄誉霊巖上人像（大巖院像）



後年、弟子が著した『霊巖和尚伝記』によると、大巖院に立ち寄った朝鮮人が雄誉霊巖上人の筆による宝珠様式の額書を褒め、その業績を聞き「現身の仏陀なりと嘆徳」と記されている。朝鮮通信使の正史には記録がないが、もし館山の大巖院を訪れていたとすれば、これまで知られていない日韓（朝）交流の歴史が明らかになるかもしれない。

(241010)

<協賛金のご案内> 事業開催に関わる調査研究・講師謝礼等の活動基金につきご協力いただければ幸いです。

ゆうちょ銀行 00260-1-97307 名義：NPO 法人安房文化遺産フォーラム